

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人さいたま市文化振興事業団	
施 設 名	さいたま市文化センター	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	10,622	(千円)
公演事業	5,093	(千円)
人材養成事業	3,197	(千円)
普及啓発事業	2,332	(千円)

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	合唱！カルミナ・ブラーナ 東京フィルハーモニー交響楽団 with さいたま市民合唱団	令和2年1月11日	東京フィルハーモニー交響楽団、大友直人、さいたま市民合唱団、幸田浩子、高橋淳、萩原潤	目標値	1,400名
		大ホール		実績値	1,142名
2	子ども伝統芸能まつり	令和2年2月8日 ～2月9日	2/8 さいたま市内の小・中学生で構成される伝統芸能団体 9 団体	目標値	204名
		2/8 プラザウエスト さくらホール 2/9 小ホール	2/9 武田孝史、武田伊佐（宝生流） 内藤飛能（宝生流） ほか	実績値	345名
3	みんなで創る「気軽にコンサートを楽しもう！」 SaCLa アーツフライデーワンコインコンサート	令和元年12月20日 令和2年2月28日 (2/28は中止)	12/20 小倉貴久子（フォルテピアノ） 丸山韶（ヴァイオリン） 島根朋史（チェロ）	目標値	1,240名
		12/20 大ホール 2/28 小ホール	2/28 吉野駿（ヴァイオリン）京極朔子（ヴァイオリン）古屋聡見（ヴィオラ） 黒川美咲（チェロ）	実績値	875名
4	声につながる仲間たち～ うた・アカペラ・落語ステージ～	令和元年12月1日	立川談慶・INSPi・沢田知可子・さいたま桜高等学園音楽部・星の子合唱団	目標値	1,303名
		大ホール		実績値	737名
5	国際芸術祭開催記念事業 みんなで創る「輪—るど（ワールド）・ミュージック・フェスティバル」	令和2年3月21日 (中止)	さいたま市立岩槻中学校・大宮南中学校・桜木中学校の吹奏楽部、ネルソン鈴木（アルパ）、さいたまスーパーシニアバンド、織田準一（トランペット）、ルイス・バジェ（トランペット）、サイタミーゴス、スギテツ	目標値	1,303名
		大ホール		実績値	中止
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

(2) 平成31年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	世界劇場会議国際フォーラム 2020inさいたま	令和2年2月4日 ～2月5日	登壇者 衛紀生、セーラ・ジー、ジョナサン・ ハーパー、カス・ラッセル、中村美 亜、栗林知絵子、藤井昌彦、前田有 作、河合さつき	目標値	180名
		多目的ホール		実績値	118名
2	アートマネジメント研修講座 ー評価・広報・マーケティング・法整備ー	令和元年7月17日 ～令和2年2月26日	講師 柴田英紀、中村美帆、伊藤美歩	目標値	80名
		多目的ホール ほか		実績値	46名
3	さいたま市 ジュニアソロコンテスト 2020	令和2年2月1日 ～2月16日	実行委員長 小川佳津子（マリンバ） ほか 参加者 さいたま市内の小中学生	目標値	500名
		小ホール ほか		実績値	538名
4	SaCLa サポーターズ (文化ボランティア) 基盤形成事業	平成31年4月12日 ～令和2年2月22日	研修講師 鈴木ともみ、佐々木るい子 伊藤美歩 参加者 SaCLa サポーターズ	目標値	120名
		集会室 ほか		実績値	119名
5	SaCLa サポーターズ研修ー アクティブシニアの100年人 生に向けてー	令和元年12月18日	研修講師 サントリーパブリシティサービス 株式会社 参加者 SaCLa サポーターズ	目標値	120名
		小ホール		実績値	119名
6	SaCLaスチューデントサポーターズ研修 ー未来の人材を創るー	中止	中止	目標値	20名
				実績値	中止
				目標値	
				実績値	

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	「発見！音楽の魅力」 小学校アウトリーチ 音楽コンサート	令和元年10月3日 ～12月6日	サイタマティック（和楽器カルテット）、小川真由子（フルート）、塚越慎子（マリンバ）、Feelin'（打楽器・ピアノ）、ルミナスカルテット（弦楽四重奏）	目標値	8,000名
		さいたま市立 谷田小学校ほか9校		実績値	6,118名
2	みんなで関わる「高齢者に文化芸術を届けよう！」 ①音楽から心豊かな生活へ「高齢者アウトリーチコンサート」 ②笑いから活力へ「高齢者アウトリーチ寄席」	令和元年10月5日 ～11月16日	三遊亭彩大、林家彦星、春風亭笑好、三遊亭遊七、VOXRAY（ヴォーカルグループ）、ちんどんバンド☆ざくろ（パーカッション・クラリネット・アコーディオン、スーザフォン）	目標値	500名
		シニアふれあいセンター和楽荘 ほか3施設		実績値	380名
3	特別支援学校 ふれあいコンサート	令和元年9月21日 令和2年1月21日	Akimuse（ピアノ・ヴォーカル） 中川雅玲（箏）、本間豊堂（尺八）、関雅美（箏）、折山千津子（ソプラノ）	目標値	300名
		さいたま市立さくら草特別支援学校、ひまわり特別支援学校		実績値	234名
4	談慶&マクミランの エンジョイ落語！ －字幕落語－	令和2年1月13日	立川談慶、ピーター・マクミラン	目標値	200名
		国際交流基金日本語国際センター佐藤ホール		実績値	125名
5	ダイバーシティプログラム 「コーラスチャレンジ」	令和元年6月17日 ～11月22日	講師・指導者 アカペラグループ INSPi 参加者 特別支援学校さいたま桜高等学園音楽部	目標値	20名
		埼玉県立特別支援学校 さいたま桜高等学園		実績値	17人

2. 自己評価

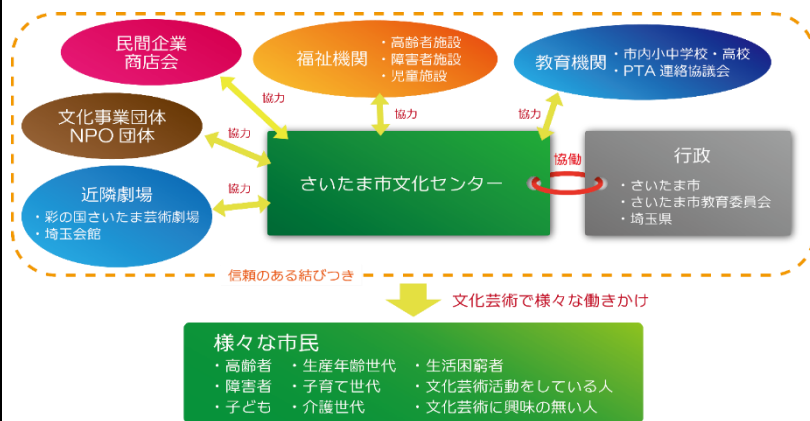
(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

【要望書で掲げていた社会的役割（ミッション）や地域の特性について】

さいたま市文化センターの社会的役割（ミッション）については、「市民みんなが楽しめる文化芸術の拠点施設を目指して」とした。前年度は「全ての市民が文化芸術を通して生き生きと心豊かに暮らせる社会をつくる」としており、平成31年度（令和元年度）も引き続き、全ての市民に文化芸術を届けることはもちろんのこと、特に文化芸術に関わることが難しい人々（障害者、高齢者、子ども、外国人等）が参加できる事業を強化することでミッションの再設定を行った。また、文化芸術基本法の基本理念においても、文化芸術が様々な分野に波及していくことを掲げており、施設を取り巻く福祉、教育、産業等の各関連分野の団体等とパートナーシップを組むことで、地域の特性や施設の強みを生かした波及効果を目指すものとした。左図が要望書に掲載した関連図である。



今年度の実施状況において、関連図の民間企業や商店会との協力を築きながらの事業実施には至っておらず、次年度への課題が残った。しかしながら、福祉機関においては特別支援学校や、さいたま市社会福祉事業団の協力を得て、高齢福祉施設等と協力関係を結び事業を実施したほか、さいたま市やさいたま市教育委員会と連携することでさいたま市内の小学校でアウトリーチコンサートを実施するなどミッションの再設定はおおむね達成できたと考える。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

さいたま市では、さいたま市文化芸術都市創造条例のもと、さいたま市文化芸術都市創造計画を定め、文化芸術都市創造に関する施策を実施している。計画ではさいたま市文化センターを文化芸術都市創造に向けての拠点施設として位置付けている。そのことを踏まえ、さいたま市文化芸術都市創造計画を文化的、社会的、経済的側面からとらえなおし、オリジナルの文化的、社会的、経済的価値を発揮できる事業計画のもと実施した。さいたま市は計画推進において、市民が年齢などを問わず、様々な方がふれあい、自主性を尊重する形を基本理念としている。そのため、（公財）さいたま市文化振興事業団が運営する文化ボランティア組織「SaCLa サポーターズ」を積極的に導入した事業の実施、市民の文化人材バンク制度「SaCLa アーツ」登録者の事業参画、公演事業においての市民とプロの共演など、人と人がかかわりを持つことができる事業を実施することで文化的、社会的、経済的価値を発揮できる環境が実現すると考える。さいたま市では令和3年度施行開始の新しい計画を策定中で、今まで培ってきた実績や、文化芸術基本法の基本理念などを勘案して計画は策定されるものと思われる。そのことを踏まえ、さいたま市文化センターにおいても、人と人のかかわりから生まれる文化的価値が、多分野に波及することのできるものを次年度以降も目指していきたい。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業の有効性について】

公演事業では「みんなが創る」をコンセプトとして、市民が能動的に参加し、プロの芸術家と共に創造できる企画を行うことで、他にはないオリジナルな事業を展開した。さいたま市では文化芸術都市の姿を4つにまとめており、その1つに「市民等が主体的に文化芸術活動に参加するまち」としている。そのため、参加した市民の満足度が向上することで、さいたま市が目指す姿に近づくと思われる。助成を受けた「子ども伝統芸能まつり」では和太鼓などに取り組む小学生たちの発表、宝生流の能楽師によるワークショップと能の親子鑑賞会を開催し、前年度の入場者数は212名であったが、今年度は345名に増加した。また、発表会に参加した子どもたちや、能のワークショップに参加した親子も前年度133名だったところ166名に増加している。参加した方からは「伝統芸能に興味はあっても足を運ぶ機会がなく、公立文化施設としてこのような事業はあってよい」との意見をいただくことができた。



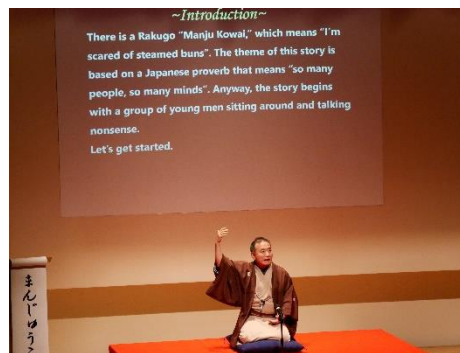
能面着用のワークショップ

【人材養成事業の有効性について】

人材養成事業では「みんなで高める」をコンセプトとして、アートマネジメント人材の養成、文化ボランティアの養成、子どもたちの養成の3点から事業を実施した。子どもたちの養成という点では、さいたま市と協働して「さいたま市ジュニアソロコンテスト」を開催した。前年度には504名のコンテスト参加者であったが、今年度は538名の参加となり、より多くの子どもたちへ、スキル向上のきっかけを提供した。また、コンテスト終了後には審査員によるミニコンサートと講評を設け、参加した子どもたちのアンケートによると84%の子どもたちが、ミニコンサートと講評はスキル向上につながったと高評価であったため、次回以降も開催を希望している。しかし、講評用紙において改善しなければならない点をもう少し詳しく講評してほしいという意見があったため、記載内容について審査員と検討する必要があると思われる。

【普及啓発事業の有効性について】

普及啓発事業では「みんなに関わる」をコンセプトとして、地域で支え合い、あらゆる人々が参加することができる事業を実施した。特に「談慶&マクミランのエンジョイ落語！-字幕落語-」では、東京2020大会の開催を見据え、日本語を学ぶ外国人の方に、日本の伝統文化である落語の魅力を伝える内容で、89%の方が落語について初見ではあったが、全体の78%の方が内容を理解できたとのアンケート結果であった。アンケートの中には「次回は日本の伝統文化について学び、準備をしてから鑑賞したい」との意見もあり、文化に関わることが難しい方にも、文化を届けられたと考える。



字幕を交えた字幕落語公演

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【当初の事業計画について】

さいたま市文化センターは平成30年11月1日から令和元年11月30日までの13か月間、修繕により休館をしたため、平成31年度（令和元年度）において、さいたま市文化センターを会場として実施するものは、令和元年12月から令和2年3月までに集中した。休館中は（公財）さいたま市文化振興事業団が管理運営する施設である市民会館うらわやアウトリーチ事業を中心に計画を行った。想定入場者数については、前年度からの継続事業が多いため、前年度の実績などをもとに計画をした。また、収支予算のうち、収入については、（公財）さいたま市文化振興事業団が行う SaCLa 友の会価格での販売や、子ども券の設定、1部・2部制を導入した事業においては、2部券のみの販売など、選択の幅を広げ、文化に興味関心がある人の利用を促進した。

【確定した事業計画の実績について】

当初の予定どおり、さいたま市文化センターの修繕期間中は、（公財）さいたま市文化振興事業団が管理運営する施設である市民会館うらわや、アウトリーチ事業を中心に計画を行ったが、令和2年2月26日からは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部事業の中止や延期を余儀なくされた。主なものとしては、公演事業のうち、みんなで創る「気軽にコンサートを楽しもう！」SaCLa アーツフライデーワンコインコンサートの一部中止（令和2年2月28日公演分）と令和2年3月21日に実施予定であった国際芸術祭開催記念事業みんなで創る「輪—ど（ワールド）・ミュージック・フェスティバル」を廃止とした。どちらも、市民が舞台上にて、創作してきた作品を披露する機会だっただけに残念な結果ではあったが、2月28日に実施予定であった SaCLa アーツフライデーワンコインコンサートにおいては、振替公演として会場確保とアーティスト日程の確保が可能であったため、次年度事業として延期をする予定である。

収支予算においては、公演事業において助成対象経費の予算総額に対して、決算総額が20%を超える変更（減額）が生じた。これは、前述のとおり、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2事業において、一部中止、廃止を行ったものによるものである。

入場者数について、普及啓発事業の「発見！音楽の魅力」小学校アウトリーチ音楽コンサートにおいて、目標値に対する実績値に大きな開きがあるが、要望書提出後にさいたま市教育委員会の協力のもと、実施校の選定を行っているため、選定された学校の規模により変動したことによるものと思われる。しかしながら、学校側には、児童や教職員のみ参加ではなく、保護者や地域住民の参加についても協力を仰ぎ、協力を得られた学校も複数あるため、更なる広がりを見出すことができたと考える。

「発見！音楽の魅力」

小学校アウトリーチ音楽コンサート →



(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【劇場・音楽堂等が地域の文化拠点として機能を最大限発揮するための資源について】

(1) 劇場・音楽堂等を象徴する人物、鍵となる人物の存在、団体について

さいたま市文化センターでは、毎年市民公募において、さいたま市民合唱団を編成し、合唱付きのクラシックコンサート公演を行ってきた。埼玉県合唱連盟の登録数データによると、さいたま市内の合唱団数は121団体と数多く、合唱の市民活動が盛んな地域である。この市民ニーズを劇場・音楽堂が地域の文化拠点としての機能を発揮できる資源ととらえ、合唱活動機会の提供を企画した。さいたま市文化芸術都市創造計画でも鑑賞機会の充実として、魅力ある文化芸術の鑑賞機会の提供が求められており、合唱活動機会の提供と併せ、日本を代表するオーケストラである東京フィルハーモニー交響楽団、指揮として大友直人氏に、さいたま市民合唱団との共演を依頼し、実現させた。指揮の大友直人氏には、さいたま市民合唱団の合唱練習にも参加をしていただき、日本を代表する指揮者から市民参加者が合唱のスキルを学ぶことで、市民が主体的に参加する機運を高めることができ、参加者からは「今後のコーラスに有益なことは間違いない」とのご意見をいただき、大きな影響があったと思われる。



さいたま市民合唱団の合唱練習
にて指導する大友直人氏 →

(2) 創造活動に関わる建物設備等について

さいたま市文化センターは小ホールに能舞台を設置できるホールとなっている。しかし、能舞台の設置には仕込みや撤収での舞台スタッフの増員、仕込み時間が多大にかかり、前日からの会場確保など、市民が一般利用として能舞台を使用できる可能性は低いと考えられる。しかし、公金を使用して建設された公立文化施設として、このようなハードを市民の方に広く知っていただくことは責務であることから、公演事業として子ども伝統芸能まつりの2日目として「学ぼう！伝えよう！日本の伝統芸能 さいたま能」を実施した。今回は宝生流の能楽師、武田孝史氏と武田伊佐氏らを迎え「船弁慶」を上演したが、上演前には同じく、宝生流能楽師の内藤飛能氏による能舞台の解説、能の歴史、役者の立ち振る舞いからの船弁慶の見どころを解説していただき、鑑賞へのハードルを低くできるように工夫した。公演前の能のワークショップでは実際に白足袋に履き替えて参加者の方に舞台上がっていただく機会も企画し、伝統芸能への興味関心を高めることができたと思われる。



さいたま能「船弁慶」の上演

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

【地域の文化拠点として機能を最大限発揮する事業として優れている点について】

（１）公演、人材養成、普及啓発の企画内容、芸術性

①公演の企画内容、芸術性の高さ、特色について

公演事業の「合唱！カルミナ・ブラーナ 東京フィルハーモニー交響楽団 with さいたま市民合唱団」において、さいたま市文化センターでは毎年、さいたま市民合唱団を結成し、クラシックコンサートに出演する事業を行ってきた。さいたま市民合唱団は毎年、さいたま市文化センターが団員を公募しているが、男声の参加率が低く、合唱団編成に課題があった。今回は、オーケストラである東京フィルハーモニー交響楽団、指揮者に大友直人を迎え、日本を代表する管弦楽と指揮者と共演できることで、いままで参加していなかった方にも参加していただけるような環境を整えつつ、合唱曲を「カルミナ・ブラーナ」にすることで、子どもたちにも参加できるよう企画をした。公募にあたっては、さいたま市報での合唱団公募の記事掲載など多岐にわたって広報活動を行ったが、男声の参加率について課題を克服することができなかった。しかしながら、子どもと女声については例年以上の参加者を得ることができた結果、総勢 300 名弱の市民の方が、日本を代表するオーケストラ、指揮者と共演することができた。



さいたま市民合唱団と東京フィルハーモニー交響楽団の共演

②人材養成、普及啓発の企画内容の高さ、特色について

人材養成事業において、文化ボランティア組織である SaCLa サポーターズの登録者数は過去最大の 109 名となり、さいたま市文化センターのみならず（公財）さいたま市文化振興事業団の管理受託施設も含め、37 事業の自主文化事業の運営に携わった。更なるボランティア概念の向上を目指した他施設の見学や、事業団情報誌「SaCLa」のステージレポートを担当できるボランティアの方を増やしていくための広報研修を開催した。登録者は過去最大であるものの、60～70 歳代の登録が 74%、女性の登録が 82%であることから、若者層や男性の登録拡大に課題があり、このような層の方が参加できる企画の見直しが求められる。

普及啓発事業においておこなった「発見！音楽の魅力」小学校アウトリーチ音楽コンサートでは今年度から、参加するアーティストと、アウトリーチコンサートの意義や子どもたちに伝えるコンセプト、伝え方などを事前協議する「打ち合わせ会」を開催した。アーティストからも、アウトリーチコンサートの経験はあるものの、今まで気づかなかった伝え方に気づいたとの意見もいただくことができた。打ち合わせ会の結果、音楽を聴くことから、音楽だけでなく、アーティストがプロとして活動する日頃の努力など、様々な分野への可能性を伝えるというコンセプトを共有して開催することとなった。



小学校アウトリーチコンサート 打ち合わせ会 →

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

【事業終了後の劇場・音楽堂等の組織の構築、強化、維持について】

① 人材面について

（公財）さいたま市文化振興事業団は、さいたま市における文化芸術都市創造に向けた計画の主要な推進団体として位置づけられていることから、更なる専門性を図るため人材の育成と職員の意欲向上に努めた。事業団が定めた第2期中期経営計画（2017年-2021年）において、事業、施設修繕、財務等の専門職の設置、人事評価制度を活用などが掲げられている。人事評価制度については、平成29年度から実施しており、さいたま市文化センターにおいても、評価者と被評価者との各種面談を通じて職員の意欲向上を図ったが、専門職制度については、今後、職員への理解を深めるなどの課題がある。

② 財務面について

財政基盤においては、さいたま市からの指定管理者として管理受託収入、貸館等の利用料収入、事業におけるチケット収入などがあげられる。平成31年度（令和元年度）は11月末日まで修繕により休館しており、年度内では4か月の開館となったことや、年度末には新型コロナウイルス感染拡大予防のための利用料の還付があったため減収となっている。しかしながら、事業面ではダイレクトメールの共同発送など費用対効果を最大限に引き出し、効率的かつ効果的な施設運営を心がけ取り組んだ。

③ 各方面とのネットワーク

劇場・音楽堂等間のネットワークについては、（公財）さいたま市文化振興事業団が管理運営している市内文化施設、コミュニティ施設はもちろんのこと、埼玉県が設置した彩の国さいたま芸術劇場や埼玉会館などと連携をして活動をした。主な連携内容としては、埼玉会館から舞台の音響技術において経験実績のあるプロパー職員に講師として来館していただき、アウトリーチコンサート等での音響設備の設置の仕方、機材の扱い方の講習を行った。次年度以降も開催を予定している事業において職員自らがスキルを発揮できるように努める。



音響機器についての研修

④ 事業のPDCAサイクルについて

さいたま市文化センターでは、さいたま市が策定した「さいたま市文化芸術都市創造計画」に基づき、事業計画を行い、さいたま市の文化芸術都市創造に向けて大きく貢献できるように企画をしている。実施にあたっては、職員研修などで得た知識や今までの実績や経験化を活かし、芸術文化の振興を図った。事業終了後は、お客様からのアンケート集計や収支決算書などに基づき事業団内で事業評価を行い、さいたま市に事業評価一覧として提出を行った。評価結果においては、次年度以降の事業継続、見直しなどを館内で協議し、次年度以降の事業に反映する予定である。